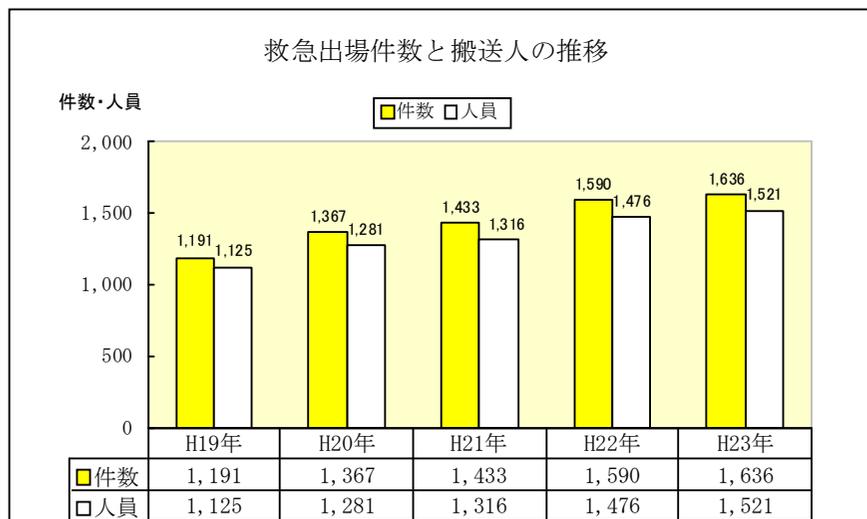
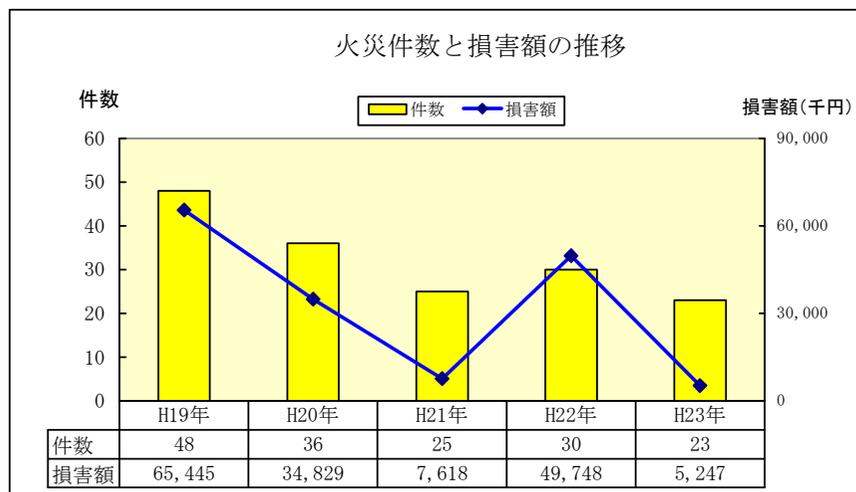


【 9 款 消防費 】

平成 23 年中における本市の火災発生状況は、発生件数 23 件、損害額 5,247 千円で、これを前年と比較すると発生件数で 7 件、損害額は 44,501 千円とそれぞれ減少となっている。また、救急活動状況は、出場件数 1,636 件、搬送人員 1,521 人で前年と比較すると、出場件数で 46 件、搬送人員で 45 人とそれぞれ増加となっている。

このような状況の中、消防業務に対する市民のニーズに対応するために、職員及び団員の研修などのソフト面における資質の向上や、消防水利施設、消防車両といったハード面における施設・設備の整備を計画的に図った。

(火災・救急統計は、暦年統計のため平成 23 年中のデータとした。)



(1) 火災予防推進事業

火災予防推進のため幼少年期から火災予防に対する関心を持たせるため、幼年消防クラブ員等へ火災予防啓発用DVD(アニメ)を購入し、避難訓練等の折に視聴させ、火災の怖さ火災予防の大切さを身につけさせる。

(2) 消防防災無線デジタル化整備

現在使用している消防無線は電波関連法の改正により、平成 28 年 5 月 31 日までの使用期限が示され、アナログ方式からデジタル方式へ移行することとなり、この整備のための事前調査として電波伝搬調査を実施し、基本設計を策定した。

(3) 消防防災施設整備

消防施設の整備は、市民の生命・財産の保護及び被害の軽減を図るためにも整備が必要であり、消防水利の設置、消防格納庫の補修等、消防施設の充実強化を図った。

(4) 消防防災設備整備

消防車両の整備は、災害現場における消防活動の円滑化を図るうえで最も重要であり、一定年数を経過した車両の更新により機動力を強化した。

事業名	事業内容	事業費
火災予防推進事業 (消防本部) 【事項別明細書 286 頁】	【平成22年度繰越明許費】 (地域活性化・きめ細かな交付金事業) 幼年への火災予防啓発用DVDを購入した。 285千円	285
消防防災無線デジタル化整備事業 (消防本部) 【事項別明細書 290 頁】	消防無線デジタル化整備に向けての調査・基本設計を行った。 ・消防デジタル無線電波伝搬調査・基本設計業務委託料 8,085千円	8,085
消防防災施設整備事業 (消防本部) 【事項別明細書 290 頁】	水利不便地区に対する防火水槽の新設及び防火水槽・消火栓の改修を図った。また、消防団格納庫の建替えのための設計を行った。 ・耐震性貯水槽新設 40 t 級 2 基(木場・主師) 11,832千円 ・志々伎防火水槽改修 930千円 ・消火栓改修 1基(迎紐差地区) 40千円 ・野子格納庫設計委託料 609千円 消防庁舎建設予定地の用地取得のための土地鑑定を行った。 ・庁舎用地土地鑑定業務委託料 368千円	13,779
	【平成 22 年度繰越明許費】 <地域活性化・きめ細かな交付金事業> 消防団格納庫、消火栓等新設、改修を行い消防施設の整備を行った。 ・消防格納庫屋根改修(京崎) 399千円 ・消火栓新設・改修工事(生月 5 箇所・田平 2 箇所) 3,639千円	4,038
消防防災設備整備事業 (消防本部) 【事項別明細書 290 頁】	車両等設備について、計画的更新を行うことにより災害時における機動力の強化と消火活動の円滑化に努める。 ・小型動力ポンプ付積載車 2 台(堺目、大島前平) 8,606 千円 ・空気呼吸器 2 基(本署、中津良出張所) 917 千円	9,523
	【平成22年度繰越明許費】 <地域活性化・きめ細かな交付金事業> 消防資機材及び個人装備品の整備を行った。 需用費(消耗品費) ・防塵めがね(78個)・人命搜索活動用品 423千円 備品購入費 ・消防器具 3,113千円 ヘッドランプ(325個)・エアージャッキ一式・発電機一式(5基) 空気呼吸器(3基) ・救助資機材 2,004千円 空気式救助資機材コントローラー・救助器具耐圧ホース エアソー・LEDライト(78個)・ガス検知器・携帯無線機(平戸17分団)	5,540

財源内訳				事業の成果
国県支出金	地方債	その他	一般財源	
221			64	幼年消防クラブ員等へ火災予防啓発用DVD(アニメ)を視聴させ、火災の怖さ等幼年消防の育成活動の充実が図られた。
			8,085	火災、救急等の消防活動の円滑化を図るため、通信機器の充実、高度化を整備することは極めて重要であり、消防無線デジタル化整備に向けて回線設計、基地局の位置を決定するための伝播調査を行い、基本設計を作成することができ、実施設計作成に向けての準備が図られた。
4,980	7,142		1,657	消防水利が乏しく有事の際、消火活動が危惧されていた地区において、耐震性貯水槽の新設、消火栓配管の改修を行ったことで、消防施設、水利の充実が図られた。また、老朽化した格納庫の建替えのための設計を行い、建設に向けての準備が整った 消防庁舎用地取得に係る土地鑑定の業務委託を行い、市民の消防・防災の拠点となる消防庁舎建設に係る用地交渉が可能となった。
3,135			903	老朽化した消防団格納庫の改修、消火栓の新設や補修等、消防水利の整備、充実が図られた。
	8,400		1,123	老朽化により性能が低下した消防車両を更新したことで、災害時における機動力の強化と消火活動の円滑化が図られ、また、市民の生命・財産の保護及び被害の軽減に寄与することができた。
4,304			1,236	救助資機材・発電機等の資機材の充実を図り、効果的かつ円滑な消防活動を行うための環境整備が整った。 また、消防職員・団員の個人装備の充実を図り、隊員の安全確保を図ることができた。

業 名	事 業 内 容	事 業 費
防災行政無線施設整備事業 (総務課) 【事項別明細書 290 頁】 【事項別明細書 292 頁】	デジタル同報系防災行政無線施設整備の平成 23 年度工事を行った。 平成 23 年度工事の内容 ・ 慈眼岳中継局の建設 ・ 平戸地区、大島地区、生月地区、田平地区の再送信局の設置 ・ 平戸地区及び大島地区の屋外子局の設置 (平：107、大：15) ・ 大島地区、生月地区及び平戸地区の戸別受信機の設置 ・ 生月支所、田平支所及び大島支所への文字入力装置、遠隔制御装置の設置 ・ 文字表示戸別受信機の設置 ・ 公共施設への戸別受信機の設置 ・ 既設局の撤去	367,350

財 源 内 訳				事 業 の 成 果
国県支出金	地 方 債	そ の 他	一般財源	
100,000	253,900		13,450	屋外拡声子局及び戸別受信機の一部運用開始により、防災情報及び行政情報の市民への周知が可能となった。 (事業進捗率) 平成 23 年度工事進捗率：77.9%